

設立 25 周年記念公開講演会を開催しました

「北京+25+1 ジェンダー平等はどこまで進んだか なぜ、女性議員が必要なのか」

「女性をもっと政策・方針決定の場に」を合言葉に1996年7月に発足した本会が設立25周年を迎えました。男女共同参画を目指し活動する県内で最も長い歴史を持つ団体となりました。これを記念して2021年7月11日、佐賀県立男女共同参画センター「アバンセ」(佐賀市)で講演会を開催しました。佐賀県の山口祥義知事から寄せられたメッセージと山崎和子理事長の挨拶、そして(公財)アジア女性交流・研究フォーラム理事長の堀内光子さんによる講演会の概要をご紹介します。



女性参画研究会・さかの
25年の歩み

2021.07.11 | 特定非営利活動法人女性参画研究会・さが

会場で上映した25周年の歩みより

「ひとつひとつ前へ」

佐賀県知事 山口 祥義

記念講演会に寄せてメッセージをいただきました

女性参画研究会・さかの設立25周年を心からお喜び申し上げます。

1995年に北京で開催された第4回世界女性会議において、女性の貧困や教育、女性の意思決定の場への参画など12分野の目標を掲げた行動要領が採択されました。この会議をきっかけに設立された貴会は、今日まで、本県の男女共同参画社会づくり推進のため、女性の政治参画促進等に力を尽くしてこられました。

これまでの御活動に対しまして、歴代理事長様を始め会員の皆様に深く敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

今から75年前、女性の参政権が認められてまもない1946年に女性初の国会議員が誕生しました。その中で最年少であった佐藤きよ子さんは、女性が初めて世

の中で自分の考えを主張できるといふ感激で心が震えたそうです。

生涯、日照権運動や路上生活者支援に携わり、90歳を超えても日本の社会づくりに貢献

しつづけた佐藤さんは次のような言葉を残しています。

「自分のことは人に求めるのではなく自分が汗を流さなあかん。皆あきらめるな。ここに見本がおりますかな。」

どんな困難な状況でも前を向き歩み続けた佐藤さんは、その精力的な活動と力強いエールで後進の女性たちをも励まし続けてこられたのだと思います。

女性参画研究会・さかの皆様も、これまで25年という長い年月をかけ、女性の政治参画、社会参画に尽



力してられました。近年、佐賀県における審議会等委員に占める女性の割合は、国が目標とする30%をはるかに超え40%台に至るなど、皆様が積み重ねられてきたひとつひとつの活動が、今の社会の変化に着実に結び付いていっているのだと感じられます。

佐賀県では、男性、女性にかかわらず、個々の能力を生かし、お互い認め合いながら、全ての人が輝く佐賀づくりを進めています。このような中で、女性参画研究会・さかの皆様の活動は、まさに、力強い存在であり、これ

からも、皆様とともに、佐賀の女性の持てる力で、佐賀の未来をもっと輝くものにしていきたいと思っています。

最後になりましたが、女性参画研究会・さかの、今後、益々の御発展と皆様の御健勝をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和3年7月11日

佐賀県知事 山口 祥義

女性参画研究会・さが 設立25周年を迎えて

1995年に実施された国連第4回北京世界女性会議に並行して実施されたNGOフォーラムには、本県からも佐賀県女性の翼の派遣団20人を含む多数の女性が参加し、世界の女性たちと交流や学びを深めました。そのエンパワメントで翌年、誕生したのが「女性参画研究会・さが」です。

発会当時、49市町村中、女性議員がいない市町村が33、女性議員数は25名と全体の3.1%でした。「女性議員のいない市町村をなくそう」「政策決定の場へ女性30%の実現」を合言葉に、講演会、学習会、政治参画セミナー等を重ね、多数の女性議員の誕生につながりました。

また、2002年に特定非営利活動法人の認証を受けて以降は、あらゆる分野の政策・方針決定過程への女性の参画をも支援してきました。県議を含む女性議員数は、2004年の54名が現在までで最多ですが、全議員に占める女性議員の割合は2020年が9.8%と、過去最大となりました。全国的にはまだまだの比率ですが、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の施行や昨年のジェンダーギャップ指数をもじった「121位ショック」、「空気を読まない女性発言」の風が追い風になっているかもと感じることもあります。

女性参画研究会・さかの25年の歴史は、アバンセの歴史と重なり、北京女性会議で採択され国際的な男女共同参画の取組の規範となっている「北京宣言・行動綱領」が礎になっています。今回、アジア女性交流・研究フォーラム 理事長の堀内光子さんをお迎えして、記念講演をしていただくこととしました。

本日は、コロナ禍での制約が数々ある中、この講演会を開催できましたことを大変嬉しく思っております。会場にお出でくださったみな様方や、オンラインで参加をいただいているみな様方に、心からお礼を申し上げます。

関係団体・機関のみな様には、今後とも当会の運営にご支援、ご協力をいただきますようお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

2021年7月11日

特定非営利活動法人 女性参画研究会・さが
理事長 山崎 和子



主催者挨拶をする 山崎 和子 理事長

設立25周年記念公開講演会

1996年7月20日に産声を上げた「特定非営利活動法人女性参画研究会・さが」は本年7月11日、佐賀市のアバンセで25周年記念公開講演会を開催しました。講演会では会の発足の契機となった北京女性会議に参加した佐賀の女性達の様子を動画で紹介。会場からは「当時の熱気が伝わってきた」、「懐かしい」との声があがりました。続いてこの25年の歩みを写真とナレーションで辿りました。

開会にあたり、山崎和子理事長は「1995年のアバンセ開館後、北京女性会議NGOフォーラムに多くの女性が参加し交流して帰って来ました。頂いたエンパワメントで女性議員のいない市町村をなくす、政策決定の場の女性の比率を30%にすることを目標に掲げて活動してきました。発会当時の1996年、佐賀県内49市町村中女性議員が不在だったのは33市町村でしたが現在は20市町のうち不在は4町になりました。しかし現在も県内のすべての議員の中で女性議員の占める割合はまだ1割に達していません。この25年を振り返り、何が成果と上げられ何が課題と残っているのかを見極めたいと講演会を開催することとしました。さらに、今後もセミナーやロビーイング活動をしっかり行っていききたいと思います」と活動協力へのお礼と、今後の活動に向けた抱負を述べました。

本会と共に歩んできた佐賀県女性議員ネットワークの盛泰子代表は祝辞の中で「この25年の間に発掘され磨き上げてくれた原石が多くの分野で活躍しています。ご一緒に素晴らしい佐賀を作っていきましょう。」とエールを送られました。

今回の講演会では北京女性会議にも国連機関の一員として深く関わられ、その後も国連機関・大学・NGOで活動を続けられている(公財)アジア女性交流研究フォーラム理事長の堀内光子さんを講師に「北京



講義する堀内 光子さん



来賓挨拶をする
佐賀県女性議員ネットワーク 盛 泰子 代表



ホワイエの展示
「女性参画研究会・さが の25年」

+25+1 ジェンダー平等はどこまで進んだか なぜ、女性議員が必要なのか」をテーマにお話を伺いました。まず、堀内さんは、

- ・7月11日、今日は国連が定める世界人口デーだが、女性が人口の半分を占めているにもかかわらず、女性議員が少ないというのは、間接民主制が機能できないということ。
- ・北京女性会議は女性の地位向上からジェンダー平等に移行する大きな転換点になった。ただ、その時は男女の問題であり性の多様性までは十分でなかった。
- ・ジェンダーは全ての問題につながるが、イスラム社会など国連は多様な国家が加盟しているので、国連

の中でジェンダーが人権問題とされたのはこの10年程のこと。2021年の国際女性デーで政治の分野で女性の参画がやっと取り上げられた。

・日本はジェンダー格差が世界とどんどん広がっている。アメリカで女性副大統領が実現したり、女性閣僚が増えたりしたのは、政策というよりも、それを求める女性の活発な動きがあったからと分析している。日本では特に地方議会議員が少ないが、それは選挙のやり方が影響している。

・世界がジェンダー平等になるまでに何年かかるかという、政治エンパワメントで145.5年、経済参加は267.6年、総合では15.6年かかる予測であり、私たちの世代では平等になることはない。だからこそ選挙におけるクォータ制は暫定的な特別措置として実行する必要がある。

・2018年、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が制定され、今年改正されたが、厳しくやらないと女性の政治参画を勧めることは難しい。国と地方公共団体の施策を強化すべきで、プレッシャーをかける必要がある。

・SDGsの中に入っている女性差別撤廃のシグナルについても解説され、2030年までの達成目標なのに既に5年経過してしまっている。ファッションの様に言われているがちゃんと進んでいるか疑問。

そして「差別があることは事実で、意識改革をしていく

ことが大切。これを改めるには市民活動が活発に行われることが必要だ」と結ばれました。

約100人がコロナ対策をとりながら会場とオンラインで講演会に参加いただきました。ライブ配信だけでなく、事前申し込みを受けた方々はユーチューブ配信も視聴できる体制を整えました。アンケートでは殆どの方がとてもよかったと記載され、「ジェンダー問題は女性だけでなく男女の問題でもあり、女性の人権問題」「生きている間にジェンダー平等はないとの発表に驚きましたが、これからの社会のために声を出し続けていくことの大切さを感じました」「課題はたくさんありますが自分に何が出来るか考える一助になりました」「継続は力なり。ネットワークの強さ、元気をもらえました」「課題山積の中、光を灯りをどこに求めるか糸口を見つけた気がしました」など、実行委員が励まされる内容が綴られていました。山崎理事長が冒頭でお約束したように、セミナーやロビーイング活動をしっかりと続けていきたいと思えます。今後とも特定非営利活動法人女性参画研究会・さが」の活動にご支援、ご協力をお願い致します。

(内田 信子)



公開講演会の後、関係の皆さんと

山下史眞子さんを偲んで

本法人初代理事長であった山下史眞子さんは、令和3年10月4日、87歳の生涯を閉じられました。

山下史眞子さんは、女性の社会進出の先駆けの一人として、時代の逆風に揉まれながらもひた向きに歩んで来られました。

JA初の女性管理職として活躍し、地域活動、社会活動においても、抜群の企画力と細やかな心配りで、頼もしくリーダーシップを発揮し、皆を先導してくださいました。

また、茶道や吟道にも造詣が深く、師匠、家元としての一面も持っておられ、介護施設へのお茶の接待などのボランティア活動にも熱心でした。

アバンセの初代館長であった船橋邦子さんは、「強い信念と凛として生きる美しい佇まい、気負うことなく穏やかで優しく、あなたは真の女性リーダーでした」と讃えられました。

与えられた人生を全力で走り抜かれた山下史眞子さん、有難うございました。



山下史眞子さんへ感謝状授与の日、みんなで

お別れの言葉

理事長 山崎 和子

山下史眞子さん、10月4日の夕刻、あまりに突然の訃報に接し、未だに信じられない思いです。

葬儀会場入口で紹介されていた山下さんの功績をたたえる賞状を拝見し、このように多くの分野で活躍されてきたことを改めて思い知りました。

山下さんからは、30年を超える農協勤務時代の仕事、当時としては新しい考え方であった「農家生活の改善と農村女性の地位向上」がベースにあり、そののち、団長として派遣された佐賀県の女性海外派遣事業「婦人の翼」でのヨーロッパ研修中に訪問先で聞いた「あなた方は帰国したら、議員とし立候補するか 候補者を

支える役を担うかするべきだ」という言葉が、その後の活動の転機となったとよくお聞きしました。

また、平成7年、中国北京で開催された国連第4回世界女性会議NGOフォーラムへの参加と、加えて、アバンセ初代館長 船橋邦子さんの影響も大きく、その後の活動母体となる「女性参画研究会・さが」を立ち上げ、十分にリーダーシップを発揮されました。

さらに、1995年の国連北京世界女性会議から5年後には、ニューヨーク国連本部において国連特別総会「2000年女性会議」が開催され、これに合わせて開催されたジャパン・グローバル・フォーラムには、佐賀から団長としての山下史眞子さんをはじめ20名の女性が参加され、ワークショップ「女性議員支援の取り組み」を主催、このワークショップは会場で大変注目を浴びて嬉しかったと話されていました。

仲間との一口500円カンパによる市川房江式の市民選挙を5回行った元佐賀市議会副議長の岩尾幸代さんは、山下さんが、平成27年、男女共同参画内閣総理大臣表彰を受けられたときの祝賀会において、「当時、女性参画研究会・さがを立ち上げて代表だった山下さんは、毎回、あちこちの演説会場で、熱く女性の政治参画の意義を語られ、どれほど、励まされたか分かりません。」とメッセージを寄せられました。



団長として参加した2000年ジャパン・グローバル・フォーラムでワークショップを主催

つい最近まで、何かにつけお電話をかけ、いつもこちらが切るまで話を聞いて貰っていたのに今後はかないません。

山下さんにとっては心もとない後継者ですが、理事、会員の皆さんと力を合わせ、女性の政治スクール開設を目指したいと考えています。どうぞ、見まもっててください。

私たちは山下さんの業績を決して忘れず、尊敬と感謝の気持ちでお別れします。

謹んで、ご冥福をお祈りいたします。

女性議員育成・支援の25年

副理事長 内野 さよ子

10月4日、山下史眞子さんの突然のご訃報を聞き、深い悲しみでいっぱいです。

山下史眞子さんは、女性参画の先駆けとして、特に農村女性の地位向上のためにJA初の女性管理職として活躍されており、私も農協婦人部や家の光大会等で、何回も講演をお聞きしたことがありました。

山下さんは、私と同じく大町町の出身であり、特に気を掛けていただき女性参画研究会・さがの立ち上げについては、設立発起人の一人として参画させていただきました。

女性参画研究会・さがの第一の活動目標として女性の地位向上、特に女性を議会へ、女性議員のいない

市町村をなくそうということを強く訴えられており、私も個人的に、史眞子さんの応援、後押しで白石町議会議員へ挑戦したと言っても過言ではありません。その後、参画研究会では山下さんと一緒に県内市町村を回り、女性の議席確保をお願いして回りました。また、毎回、私の選挙のたびに、白石町まで出かけていただき貴重な示唆、応援をいただいていた。本当にありがとうございました。

まさに、山下さんは私にとって、よき人生の恩師であると同時に、厳しさと、優しさをもたれたよき先輩、先生でありました。

佐賀県女性議員ネットワークの前身である女性議員政策研究会と女性参画研究会・さがは、車の両輪であり、参画研究会、初代理事長として約10年間、県内の女性議員の議席確保、拡大を目指し、女性の地位向上に向けて活動され、いつもその先導役でした。

まさしく当時の県内女性議員が、史眞子さんから、陽に陰にお世話になって来られたと思います。行動力は抜群で、しかも、常に心配りをモットーとされており、頭の下がる思いでした。このような行動、活動が実を結び、現在、佐賀県女性議員ネットワークは党派を超えて、39名のメンバーとなり、活動をしています。更なる会員の拡大となることを願っております。どうぞお見守り下さい。

山下史眞子さんお疲れ様でした。本当にありがとうございました。

編集後記

●2021年の秋以来、佐賀県内の市町議会議員選挙では女性の活躍が目立ちました。女性議員が10月の佐賀市で3名から6名に、11月の鳥栖市で2名から5名に、2022年1月の嬉野市で2名から4名に、2月の小城市で3名から5名に増えました。また4月の吉野ケ里町では久方ぶりに女性議員が1人誕生しました。しかし、本年5月現在、20市町の女性議員の割合は13.4%と、30%には程遠く、女性議員が1人もいない議会が上峰、玄海、有田とまだ3町もあります。

私たちはこの歩みをさらに進めるために、今年度「さが・女性政治塾」をスタートさせます。

故山下史眞子さんの志を引き継ぎ、政策決定の場に一人でも多くの女性を送り出すためです。議員を志す人、議員を志す人を支援する人、現職議員、政治に関心のある人、何かを変えなければと思うけれども何をすればよいかわからない人、などなど。幅広く参加を呼び掛けます。会員の皆さま、どうぞご支援下さい。

(内田信子)